

高浜市総合計画審議会(第2回) 会議録

日 時	平成25年6月26日(水) 午後7時～8時30分		
場 所	場 所 高浜市役所 第2会議室	傍聴人数	5人
出席者	委 員	中川幾郎、阿知波勝義、井野代司彦、岩月義成、小松邦明、酒井康満、高桑雄司、竹内一仁、内藤靖子、中川勝利、古橋知美、杉浦幸七 (12名出席)	
	中期 基本計画 策定会議 メンバー	(兼 副市長 杉浦幸七)	○ 自治推進チーム 岡島正明
		欠 教育長 岸上善徳	○ 財政チーム 竹内正夫
		○ 企画部長 加藤元久	○ 生涯学習チーム 内藤克己
○ 総務部長 新美龍二		○ 子育て・子育てチーム 磯村順司	
○ 市民総合窓口センター長 大岡英城		○ 産業・観光チーム 山本時雄	
○ 福祉部長 神谷美百合		○ 環境チーム 山下浩二	
○ こども未来部長 神谷坂敏		○ 都市基盤・防犯・防災チーム 芝田啓二	
○ 都市政策部長 深谷直弘		○ 地域福祉チーム 杉浦崇臣	
○ 議会事務局長 森野 隆		○ 健康チーム 加藤一志	
	(16名出席)		
事務局	市長 吉岡初浩 (兼 企画部長 加藤元久) (兼 地域政策グループ リーダー 岡島正明 (自治推進チームリーダー)) 地域政策グループ 主 幹 三井まゆみ 同 副主幹 鈴木明美 同 主 査 山本衣江 同 主 査 山本久美 同 主 査 榊原雅彦 同 主 事 中村 彩 同 主 事 岡田真吾 (8名出席)		
次 第	1 あいさつ 2 議題 1) 中期基本計画 冊子構成(案)について 【資料2】 2) 中期基本計画 フォーマット(案)について 【資料3】 3) 中期基本計画 施策構成(案)について 【資料4】 3 その他 市民意識調査結果について 【資料5】		
資 料	資料1 高浜市総合計画審議会(第1回)議事録 資料2 中期基本計画 冊子構成【案】 資料3 中期基本計画 フォーマット【案】 資料4 中期基本計画 施策構成【案】 資料5 平成25年度「市民意識調査」「小・中学生アンケート」の実施概要について		

1 会長あいさつ

- ・ 前回は、1回目ということで、職員のみなさんから「施策課題カルテ」に基づいて、前期基本計画の2年間を振り返り、これまでの取り組みから見えてきた課題や新たな課題、そして、課題を踏まえて、今後、高浜市において特に力を入れていきたいと考えている取り組みについて、説明をしていただいた。
- ・ 今日、前半では、中期基本計画の冊子構成や、計画内容を記載するフォーマットの検討を、後半では、中期基本計画の施策構成（案）について、各分野の担当部長から発表をしていただき、委員のみなさんのご意見を頂戴したい。

2 議題

1) 中期基本計画 冊子構成（案）について

事務局より資料2をもとに、前期冊子と比較しながら説明

委員：・冊子は、いつ、誰に渡すのか。全市民に配布するのか。

事務局：・基本計画の素案について審議会から行政へ答申していただいた後、議会で計画内容についてご審議・ご議決いただく。その後、冊子を印刷し、市民の皆さんにお渡しする。

・全市民には配布しないが、入手しやすい環境は整え、必要な人に配布していく。

委員：・必要な人とは、どういう人か。市職員や各町内会長などか。私は、こういう冊子があるということを、審議会委員になるまで知らなかった。全市民に配れとは言わないが、もう少し市民にPRしたほうがいい。

事務局：・各公共施設に置くなど、一般市民の方々にも手にとっていただける環境をつくっていききたい。多くの方々に、総合計画に掲げた目標を共有していただきたいという想いは同じである。地域へ出かけていくなどして、広めていきたい。

—原案どおり承認—

2) 中期基本計画 フォーマット（案）について

事務局より資料3をもとに説明

委員：・「みんなで目指すまちづくりの指標」は、2013年から2017年の4年間の設定だけでよいのか。例えば、中間点を設け、「目標値を修正した方がよい」とか「もっとより高くしよう」といったことも必要だと思うが、いかがか。

事務局：・「みんなで目指すまちづくりの指標」は、毎年度、市民意識調査等で測定している。その指標がどういう状況にあるかという中身の分析を行政内部で行い、改善していくためには、どういう取り組みが必要かといったことを、施策評価という形で点検・確認をしている。

委員：・それは、毎年、市民に公表されているか。

事務局：・市民意識調査や指標の結果については、毎年掲載しており、今年は広報7月1日号へ掲載する。

委員：・観測指標は便利だが、「いつまでに、どれぐらいを目指す」ということがあいまいではないか。前期も、どこでどういうふうに指標を評価してきたかが、正直、わからなかった。アクションプランに、どのようにつながっていくのかを教えてください。

- 事務局 : ・市民意識調査や指標の数値を分析し、「その数値を達成するためには、どのような課題があり、どのような考え方で改善のアクションにつなげていくか」ということを施策評価シートに書いている。
- 委員 : ・学校教育の分野では「過去1年間に地域行事・ボランティアに参画した子どもの割合」は、評価で「×」になっている。中期基本計画を策定する場合には、2013年度の実績値が、4.4%なので、2017年度に20%に持っていくとなると、10何%も上げるために、何をどうやっていくのかが見えない。先程中間点を設定してはどうかという意見があったが、2年目でまずは15%を目指す、最終年度で20%を目指すということであればわかりやすい。
- 事務局 : ・資料5の裏面にある目標(5)の指標「過去1年間に地域行事・ボランティア活動に参画した子どもの割合」のことを指していると思うが、前期ではこの指標を掲げたが、そもそもこの指標を設定したことが適切だったかどうかという問題がある。また、学校の先生のアンケートの書かせ方によっても、数字が変わってくるという可能性もある。中期では、この指標自体を、もう一回検証する必要がある。
- 委員 : ・目標の達成度を計る指標そのものも見直すという理解でよいか。
- 事務局 : ・前期で掲げた指標の一つひとつを分析し、本当に指標としてふさわしかったかどうかを検証し、変えていく必要があるものは変え、そのままよいものはそのままにし、次へつなげていく。
- 委員 : ・毎年、指標の数値を調べるとのことだが、毎年の目標値は設定されるのか。冊子の中では、4年後の目標値が掲載されているだけで、毎年度の目標値や中間年の目標値が見えてこない。そうしたものがないと、最初の3年間は目標値を達成できなくても、最後の1年に頑張ればよいといったことが起こるのではないか。
- 会長 : ・中間年などの途中で、目標値の妥当性を確認する余地があるのではないか、あるいは、指標そのものが不適切ではないかとかいうことを点検しなくてよいのかというご指摘だと思うが、私は点検するべきだと思うし、もし、妥当性を欠くものがあれば、この審議会等に諮問をし、指標の修正を諮れば良い。
- ・中期基本計画を策定する前に、前期の指標の総チェックを行うとのことなので、計画期間中に指標の変更がないように、策定時に慎重に設定すべきとは思いますが、もし、途中で「妥当性がない」という場合には、変更すればよい。
- 委員 : ・冊子の第4章に「計画の進行管理」という章があるので、指標の見直しについては、そこで触れておいていただくとよい。

—原案どおり承認—

3) 中期基本計画 施策構成(案)について

事務局より、資料4の1ページ目「一覧」に基づき、中期の施策構成(案)の概要を説明

- 会長 : ・前期では「大家族たかはま」の実現に向けて、4つの基本目標のもとに、14の分野ごとの目標を掲げて取り組みを進めてきたが、前期の取り組みから見えてきた課題や新たな課題、また、今後力を入れて取り組んでいく必要がある事柄などを踏まえて、中期に向けて目標の構成を組み立て直す必要がある。そこ

で、行政のプロジェクトチームで検討した結果、中期では分野ごとの目標は全部で11にしてはどうか、という提案である。

- ・これから、なぜ、このような構成（案）としたのか、その理由・考え方について、各分野の担当部長から発表をしていただく。

行政：（基本目標Ⅰ～Ⅳの施策構成を説明）

会長：・ただ今、各部長から基本目標ⅠからⅣまで、説明していただいたが、基本目標ごとに区切りながら、ご意見・ご質問をいただきたい。

<基本目標Ⅰ>

会長：・資料4の2ページ「基本目標Ⅰ みんなで考え みんなで汗かき みんなのまちを創ろう」の施策構成だが、前期の目標（1）「市政経営」は、総合計画の進行管理に関する内容が主なものである。中期では、進行管理に関する部分は、別の章立てで記述するので、市政経営に関する目標は、中期では目標としては掲げない。ただし、「参画」「情報共有」に関する事柄などその一部は、目標（3）の「協働・自治」に統合するという説明だった。

- ・前期の目標（2）「財政運営」については、引き続き、一つの目標として掲げる。
- ・つまり、前期で3つあった目標を統廃合し、2つにするということである。

委員：・目標（3）の記述に、「参画と協働と情報の共有の原則の視点を重視する」とあることから、他の分野でも何か考えをめぐらせないといけないのではないかとと思うが、何か「こういうことを考えてやってください」という考えはあるか。

行政：・3原則の取り扱いが、これまで目標（1）と目標（3）に分かれていたのを、中期では1つにまとめる。他の分野にかぶせるということではなく、高浜市のまちづくりを進めていく上では、この3原則に基づいて取り組んでいくということを、全体の考え方として前面に出していく。

副会長：・前期の目標（1）に記述していたことを、目標（3）へ統合するということがだが、「参画・協働・情報共有の基本原則を重視する」とは具体的に何をやっていくのかということ、もう少し鮮明にしていく必要がある。

行政：・基本計画では、取り組みの方向性を記載するため、具体的な記述はしないが、別途、この3原則に関するガイドラインを作成するので、ガイドラインの中で、具体的な取り組みを示していく。

—原案どおり承認—

<基本目標Ⅱ>

会長：・次に、3ページ、基本目標Ⅱの施策構成だが、ここは、教育・子どもに関する分野である。前期では、「生涯学習」「学校教育」「子育て・子育て」という、3つの目標を掲げてきたが、中期も引き続きこの3つの目標で構成し、現行通りとするという考えである。

（質疑なし）

—原案どおり承認—

<基本目標Ⅲ>

会長：・次に4ページ、基本目標Ⅲの施策構成だが、ここは他の基本目標と比べて目標の数が多く、産業から防犯・防災まで多岐にわたっている。

- ・中期では「産業」と「コミュニティビジネス・観光」の目標を一つにまとめる。また、「都市基盤」と「公園・緑化・水辺空間」を一つにまとめる。「環境」と「防犯・防災」は引き続き、それぞれ1つずつの目標として掲げる。
- ・つまり、6つの目標だったものを、全部で4つの目標に構成するということがある。

- 委員 : ・前期の目標(8)「コミュニティ・ビジネス」では、「一定の成果をおさめてきた」と書かれており、何組か、行動を起こしていた方たちがいることも知っているが、資料5の指標の実績値は0件という結果になっているのはなぜか。
- 行政 : ・平成23年度から創出セミナーを開催し、下地づくりを進めている。2年間にわたってセミナーを開催する中で、ようやく、起業に向けて足を踏み出される方が、今年度中に2~3組は出てくると思われる。
- 委員 : ・従って、平成24年度実績はゼロだが、最終目標である25年度には目標である2件を達成できると考えている。
- 委員 : ・前期の目標(9)の「みんなでまちをきれいにします」は、ごみ問題には昔からいろいろな問題があり、ごみ拠点の不法投棄の問題、道路に草が生えている、タバコの吸殻が落ちているなど、なかなか実感が得られないのが現状である。
- 委員 : ・行政だけではなく、町内会や地主、事業主の方との協働で「みんなでまちをきれいにしよう条例」の精神を具体的に形にする取り組みを進めていけたらと思っている。
- 委員 : ・前期の目標(12)「安全・安心が実感できる基盤づくりを進めます」の「理由・考え方」の中で、「今後、中期では小中学校の防災対策の情報発信と防災教育を教育委員会と防災担当部局が連携して進める必要がある」と書かれている。小学校区単位で5つのまちづくり協議会があるが、中学生を防災の担い手としていかに取り込んでいくかが、なかなか難しい。行政としてどのように取り組んでいこうと考えているのか、具体的な事例があったら教えていただきたい。
- 委員 : ・前期の目標(9)は、まさにモラルの問題であり、各主体の頑張りや協働での取り組みが非常に重要である。中期でも、視野に入れながら考えていきたい。
- 委員 : ・前期の目標(12)について、今年度、教育委員会部局と防災部局が一緒になって、学校防災の検討委員会を立ち上げている。現段階では、学校の防災教育というステップまでにはいかないが、基幹避難所になる学校の役割や先生の役割の確認など、段階を踏んで進めていく。一部のまち協では、すでに中学生を防災の担い手として連携している例もあり、そういった例もお聞きしながら、進めていきたい。
- 行政 : ・地域の方が地域で働く、雇用の安定化を図ることは、とても大切なことであるが、雇用があるからこそ、就労に向けての教育や学習、地域で暮らすことにつながっていくと思う。
- 委員 : ・「コミュニティ・ビジネス」が「産業」へ統合されるのはいいが、具体的にどんなふうに柱立てをして、取り組んでいこうと考えているのか。コミュニティ・ビジネスの実績がゼロではなくて増えており、もっと動きがあるのであれば問題ないのだが、成果指標をどんなふうに設定するのかを明確にしていく必要が

ある。そこが曖昧だと、統合した意味が見えてこない。

・「統合することによって、こんなふうに取り組み、こんな成果指標を目指す」ということを、ある程度、具体的にして、しっかりと進行管理・検証をしていただきたい。

行政 : ・コミュニティ・ビジネスについては、平成25年度の第1回の創出セミナーを本日開講したばかり。引き続き、新たなコミュニティ・ビジネスの担い手の方を発掘しようと取り組んでいる。平成23年度からセミナーを受講された方の中で、実際に起業をしようという方が出てきている。

・行政としても、こうした動きを後押しするために、今年度から創出・創業に向けた財政的な支援制度をスタートさせ、定着できるようにバックアップしていく。2年目については運営に関する部分の財政的支援も行い、芽吹いてきたコミュニティ・ビジネスを大きな木に育てていきたい。コミュニティ・ビジネスの継続については、計画の中に位置づけ、ご意見を反映させていきたい。

委員 : ・防災・防犯の関係について、中期では、小中学生の防災教育には触れられているが、高校生の活用をどのように捉えているか。高浜市には高校があり、そこへ通っている子どもたちの中には、高浜市民もいる。また、市外から通っている子どもたちも、平日に災害が起きれば高浜市にいる。もう少し、高校の部分にも目を向けてはどうか。

行政 : ・高校には直接のコンタクトをとったことがないのが実情であるが、災害の発生状況においては、非常に重要な部分と思うので、今後、ご意見を踏まえながら、考えていきたい。

委員 : ・前期の目標(7)「まちの成長を支えるエンジンとして、産業を元気にします」と目標(8)「地域に根ざした新たなビジネスの芽を育みます」を統合することだが、目標(8)は、かなり具体的なフレーズで親しみやすいのに対し、統合してしまうと、「産業を元気にします」といった大きなくりの言葉に統合されてしまいそうで、とてももったいない気がする。目標のフレーズについては、十分に検討していただきたい。

行政 : ・前期では、地域の課題を住民の手で解決していく仕組みとして、コミュニティ・ビジネスの支援を進めてきたが、ある一定の方向性と成果は出つつある。

・「産業」を大きなくりで捉えるが、前期の目標(8)に掲げている「コミュニティ・ビジネス」と「観光」も漏らさずに盛り込んでいこうと考えている。委員の意見はきちんと反映させていきたい。

—原案どおり承認—

<基本目標IV>

会長 : ・最後に5ページの基本目標IVの施策構成だが、前期では「地域福祉」と「健康」の2つの目標を掲げてきたが、中期も引き続き、この2つの目標を掲げていきたいとのことである。

委員 : ・「現行どおり」とのことだが、市民会議の中で具体的な内容がいくつか挙がっていたと思うが、計画に組み込む考えはないか。

行政 : ・施策構成としては現行どおりだが、NEWボランティア人やボッチャなど、市

民会議で話題に出ている具体的な取り組みについては、基本計画の中に落としこんでいこうと考えている。

- 委員：・先日、災害時要援護者リストが行政から示された。しかし、私たちが調べると、本当の意味での要援護者というのは、非常に少ない。もう少し福祉として使えるリストを出してもらいたい。
- ・民生委員1人あたり、1か月で、リストに掲載されている要援護者9～10人を回っている状態。市民にできる範囲は、せいぜいその程度である。災害時には、民生委員ではそれだけのことをできるわけがない。もっとユースフルなリストをつくってほしい。
- 行政：・要援護者名簿については、民生委員協議会の定例会の中でも、いろいろとご意見をいただいております、課題が多いことは承知しています。ご意見は十分考慮させていただきます。
- 委員：・基本目標Ⅳに「つながり100倍広げよう」というフレーズがあるが、個々の目標では「一人ひとり」が強調され、「つながり」という部分が見えてこないような感じがするが、どのように考えているか。
- 行政：・前期の目標（13）・（14）には、地域が担い手となる福祉サービスの構築など、あらゆる部分に「つながり」という要素が関わっている。ポッチャや災害時要援護者支援の仕組みも、まさに「つながり」の中で展開していく事業である。
- 委員：・今、人と人とのつながりが希薄化していると言われてるので、中期の目標のフレーズにも「つながり」という言葉を入れてはどうか。
- 行政：・基本目標に掲げている「つながり」は地域福祉の大きな概念である。これからは、認知症や権利擁護の問題が大きな問題となってくることもあり、個々の目標では「一人ひとり」という言葉を強調していきたい。

—原案どおり承認—

- 会長：・本日は、中期基本計画の施策目標構成と、基本計画のフォーマットが決定した。職員の皆様は、いよいよ、この施策目標構成をもとに「目標のフレーズ」「目標が達成された姿」「こんなことに取り組みます」という、計画内容の具体的な検討を進めていただく。8月に開催する第3回審議会では、計画素案の検討状況について、職員の皆様から発表していただくので、よろしくお願ひしたい。
- ・なお、冒頭に話題が挙げた「参画・協働・情報共有の原則」は、前期計画においても施策の全てにわたって、実は反映されている。前期を策定した際の審議会でも、その趣旨は強調している。つまり、参加と協働、情報共有というのは、担当部局の所管事業という仕事ではなく、すべての分野において適用されていかねばならない。
- ・先ほどの災害時要援護者名簿の話などは全国共通の話だが、これこそまさしく、行政職員が一人ひとりの要援護者の家庭を見守るのは不可能で、地域の力を借りないと絶対無理である。民生委員が行政と地域の間にはさまって、大変ご苦労なさっている。これこそまさしく行政のバックアップ、地域の主体的な行動、それをつなぐ民生委員という、参加と協働の見本のような取り組みである。

- ・そういう構造を行政職員の皆さんも十分に理解した上で、市民の役割、地域の役割、行政の役割を、計画の中にしっかりと具体的に思い描けるように表現をしていただきたい。

3 その他（市民意識調査結果について）

事務局より資料5をもとに報告

- 委員：・目標（4）～（6）の指標の実績値はかなり良い。しかし、先日、高取小学校で事故が起き、先生方とも話をさせていただいたが、先生方は本当にいろいろなことをやっており、苦勞している。学校の外観上の問題だけでなく、学級の問題、一人ひとりの児童の問題など、様々な課題を抱えて悩んでいる。今後の取り組み事項の中で、検討をお願いしたい。
- 行政：・本日のご意見は教育委員会に申し添えさせていただく。
- 委員：・資料3では「みんなで目指すまちづくり指標」の現状値が2013年、目標値が2017年となっているが、今、説明していただいた資料5の「目標値」は、平成25年になっている。この整合性はどうなっているのか。また、指標の方向を表す矢印の向きがこれで合っているのかがわからない。
- 事務局：・資料5の一覧表の目標値とは、前期基本計画の最終年度である平成25年度の目標値のことを言っている。
- ・指標には、右肩上がりになった方がよいものと、右肩下がりになった方がよいものがある。例えば、犯罪発生件数は、下がった方がよいため、下向き矢印になっている。
- 委員：・中期基本計画の2013年の現状値欄には、資料5の一覧表にある平成25年の目標値の値が入るということか。
- 事務局：・平成25年度に中期を策定するので、平成25年度の現状値を入れることになる。前期で掲げている平成25年度の目標値を入れるのではない。
- ・中期基本計画では、「みんなで目指すまちづくり指標」そのものも、前期と変わってくるということもありうる。中期の現状値については、秋頃に改めて測定し直し、その数値を中期のフォーマットへ記載していく。その現状値に基づいて、2017年の目標値を考えていくという作業になる。
- 委員：・今回も平成24年度の実績値が出てきたのが7月なので、評価は、たぶん1年遅れる。中期基本計画を考える時点では、当然、平成25年度の実績は出ていないが、そういった中で、目標値を設定していくか。
- 事務局：・前期の目標値と実績値、中期の現状値と目標値というのを切り分けてお考えいただきたい。あくまでも、資料5は、前期基本計画の「みんなで目指すまちづくり指標」に対する平成24年度の実績値と平成25年度の目標値ということである。
- ・中期においては、前期の指標をそのまま引き継ぐものもあれば、指標そのものが適切ではなかったり、目標を統合した場合には、指標そのものを設定し直すということもある。
 - ・改めて今年度の秋頃に現状値を測定し直す。そこで出てきた数値を踏まえて、

中期の最終年度である2017年度の目標値を改めて検討していく。

- 委員 : ・満18歳以上の市民の無作為抽出した2,500人の年齢は、把握しているのか。
・世代によって回答項目が異なるのではなく、全員が同じ問いを回答するようになっているのか。子どもに関する項目について、数値が上昇しているので、世代ごとに偏りが無いか気になった。
- 事務局 : ・どの年代から何件回答があり、何%を占めているかを把握しており、すべて同じアンケートに回答をしていただいている。
・本日は一覧しかお示ししていないが、報告書を作成しており、その中では回答者の属性などもまとめている。報告書は公開していく。
- 委員 : ・ずっと目標値に達していなかったのに、最終年度で相当頑張り「達成できました」ということでもいいのか。民間では毎年目標値を設定し、その目標値達成のために何をするかを考える。数字だけ掲げるなら簡単な話。その結果「達成できませんでした、すみません。次、また頑張ります」という話が、毎年繰り返されるような気がする。
- 会長 : ・それは、総合計画の進行管理の手法に関わる話で、今までご経験の方が委員の中にも何人かいらっしゃるが、少し誤解がある。
・指標については毎年評価をし、達成値に対して到達度が低かった場合は、その原因分析をして、施策に対する改善・改革の答えを総合計画推進会議の中で行政に求めている。
・今、おっしゃっているのは、1年ごとの目標を積み上げてくべきではないかというご提起かと思うが、行政の場合は企業と違い、中長期で取り組むべき課題もあり、1年ごとに目標を定めるということがなじまないことがある。これまでの行政は中長期的目標すら定めてないのが欠陥だったが、今は、こうした指標を掲げて施策の改善を進めている。
- 委員 : ・私は、審議会の委員でもある一方で、中期基本計画策定のプロジェクトチームのコーディネーターを務めている。本日は、たくさんのご意見をいただき、感謝申し上げます。
・これで、いよいよ目標のフレーズや、目標達成に向けた考え方、目標が達成された姿について検討することになる。特に目標フレーズについては、目で見て、耳で聞いて、音として聞いて、この中期の4年で、この分野をどういう姿にしたいか、何を目指そうとしているのかという考え方をしっかり持つことが一番大切であると考えている。今後、そうした観点を大切にしながらプロジェクトを進め、委員の皆さんにわかりやすく説明してまいりたい。
- 会長 : ・指標の達成状況について、市民の皆様は「この程度か」と思ったかもしれないが、あえてよそ者である私が、外から見た視点で申し上げると、これは驚異的な数字であり、普通の自治体では考えられないぐらいの変化である。
・十分な要因分析をしたわけではないが、高浜市というまちが人口も含め、非常にコンパクトなまちなので、取り組みの効果が割りと早く表れやすいということ、今まで打ってきた施策が、有効性を発揮し始めたということかと思う。そういう点で、施策そのものの有効性が、かなり証明されてきている。

- ・一部、有効性が出ていないものがあるが、そういうものについては、今後強化していかなければいけない施策として、ご理解いただくとよい。
- ・例えば目標（13）の「一人ひとりが認め合い、その人らしく暮らせるまちづくりを進めます」というのは、資料5の中で、ただ一つの△印である。もしかすると、今は、高齢化率は大したことないが、高齢化率が上昇した時に、もっと厳しいインパクトとして出てくる可能性がある。だから、予防として今のうちから頑張る必要がある。

第3回審議会：8月28日（水）午後7時～